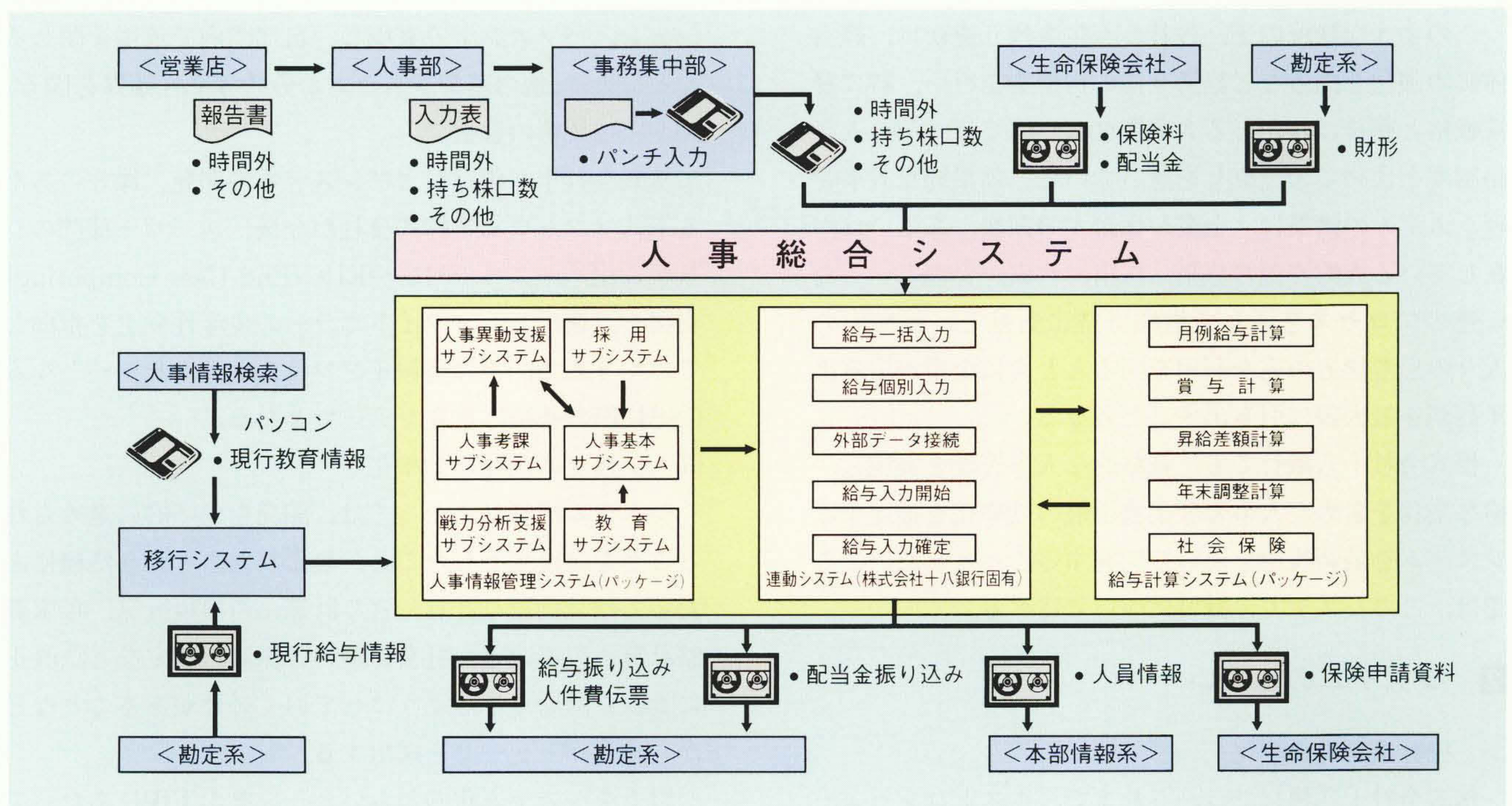


株式会社十八銀行人事総合システムにおけるAPPの適用

Implementation of Client Server APP in the Total Personnel Management System of The Eighteenth Bank, Ltd.

木須伸英* Nobuhide Kisu 江藤孝広** Takahiro Etō
佐藤博之** Hiroyuki Satō 不破圭二*** Keiji Fuwa
片桐力三** Rikizō Katagiri



株式会社十八銀行の人事総合システム全体業務処理

人事総合システムでは、パッケージ標準の入力機能に加えて生命保険会社や勘定系システムなど他システムからのデータ授受機能をアドオンしている。

戦略的な人事管理システムの構築は、組織維持に貢献するとともに企業が生み出す利潤を最大限に引き出すこととなる。

株式会社十八銀行では、戦略的な人事管理を実現し給与業務を含めた人事管理業務全般の効率化を推進するシステムを開発するため、APP(Application Program Product)を適用することとした。適用対象のうち、CSS(Client Server System)型APPである「人事情報管理システム“SIMPASER”(Hitachi Strategic Information Management System with Potential Analysis Support for Personnel Sections：シムパーサーと呼ぶ。)」および「給与計算シ

ステム“HIPAYPAS”(Hitachi Payroll & Personal Affairs Administration System：ハイペイパスと呼ぶ。)」の事例を紹介する。

また、株式会社十八銀行ではAPPの標準機能に加えて、生命保険会社などから提供される保険料や配当金データ、勘定系から提供される財形貯蓄情報などの他システムからのデータ授受機能をカスタマイズで付加させる方式を採用することとした。

日立製作所は、このAPPを含むさまざまなCSS形態のAPPの充実により、トータルソリューションを提供することができる製品、サービスのラインアップの拡充を図っていく。

* 十八ソフトウェア株式会社 ** 日立製作所 情報システム事業部 *** 日立アプリケーションシステムズ株式会社

1 はじめに

近年のバブル経済の崩壊後、企業を取り巻く経営環境は過去に例を見ないほど厳しいものとなっている。銀行をはじめとする金融界でも、金利自由化や各種規制緩和の波を受け、いっそうの競争激化が進んでいる。

このような状況の下、各社とも生き残りをかけ、経営体質の強化を図るなど経営全体の再構築を行い、特に経営戦略と密接にかかわる人事管理については、その人事諸制度を含めての見直しを急いでいる。効果的な人事管理システムの構築は、企業が保持する顕在、あるいは潜在している人的資源の募集、採用、育成、管理といった一連のプロセスを通じて組織維持に貢献し、組織内の人々の思考能力の完全利用を図るとともに企業が生み出す利潤を最大限に引き出すこととなる。

株式会社十八銀行でも、戦略的な人事管理を実現し、給与業務を含めた人事管理業務全般の効率化を推進するシステムを最新技術を用いて開発することとした。ここでは、このシステムの概要について述べる。

2 システムのねらい

(1) 現行業務の効率化

株式会社十八銀行では、これまで、ホストコンピュータを主体として個人情報管理および給与業務を含めた人事管理業務を行ってきた。新システムは、CSSの操作性の良さを生かし、ユーザー部門で主導的な運用を行うことで煩雑な作業を効率化し、業務の効率改善を図るものである。

(2) 戦略的要員計画支援の強化

各種シミュレーション機能(異動、要員計画、採用計画)、統計機能など充実した機能により、戦略的な要員活用計画の立案を支援する。

(3) 部門内運用の確立

人事・給与業務に関するすべての機能をワークステーション、パソコン上で実現し、自部門内で運用を閉じることにより、他の基幹システムからの独立性確保を図る。

(4) CSS技術の蓄積

株式会社十八銀行およびシステムの開発、保守にあたる十八ソフトウェア株式会社が今後、ユーザー部門のシステム化ニーズへの対応やEUC(End User Computing)支援を迅速にし、ホワイトカラーの生産性向上を指向していくうえで、その情報インフラストラクチャーとなるCSS技術の蓄積は重要なテーマとなる。

(5) システム開発の効率化

システム構築にあたっては、開発を効率的に進められることを最優先としたこと、および人事・給与処理にあたっては月例給与計算や賞与計算の所得税計算、年末調整計算の税率改定、社会保険の各保険料改定など法改正に柔軟に対応できるようにしておく必要があることなどから業務パッケージを採用する。

以上をシステム化のねらいとし、その実現にあたっては、日立製作所が提供する人事情報管理ならびに給与計算業務向けAPPである「人事情報管理システム“SIMPASER”(Hitachi Strategic Information Management System with Potential Analysis Support for Personnel Sections)」(図1参照)と「給与計算システム“HIPAYPAS”(Hitachi Payroll & Personal Affairs

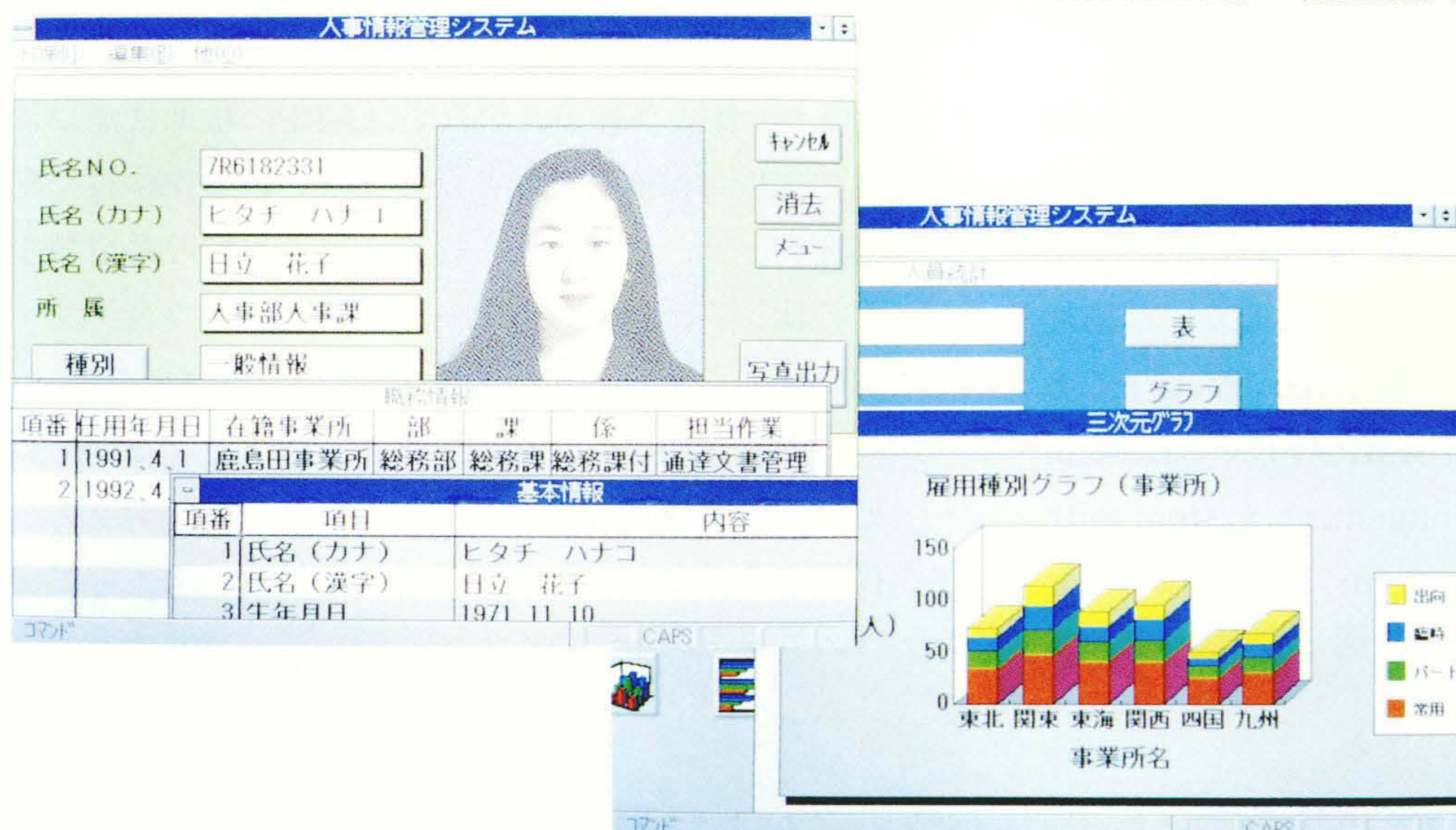


図1 SIMPASERの人事基本機能

行員個人に関する基本情報、業務履歴情報、自己申告情報などを管理し、顔写真やグラフなどをGUI(Graphical User Interface)で表示する。

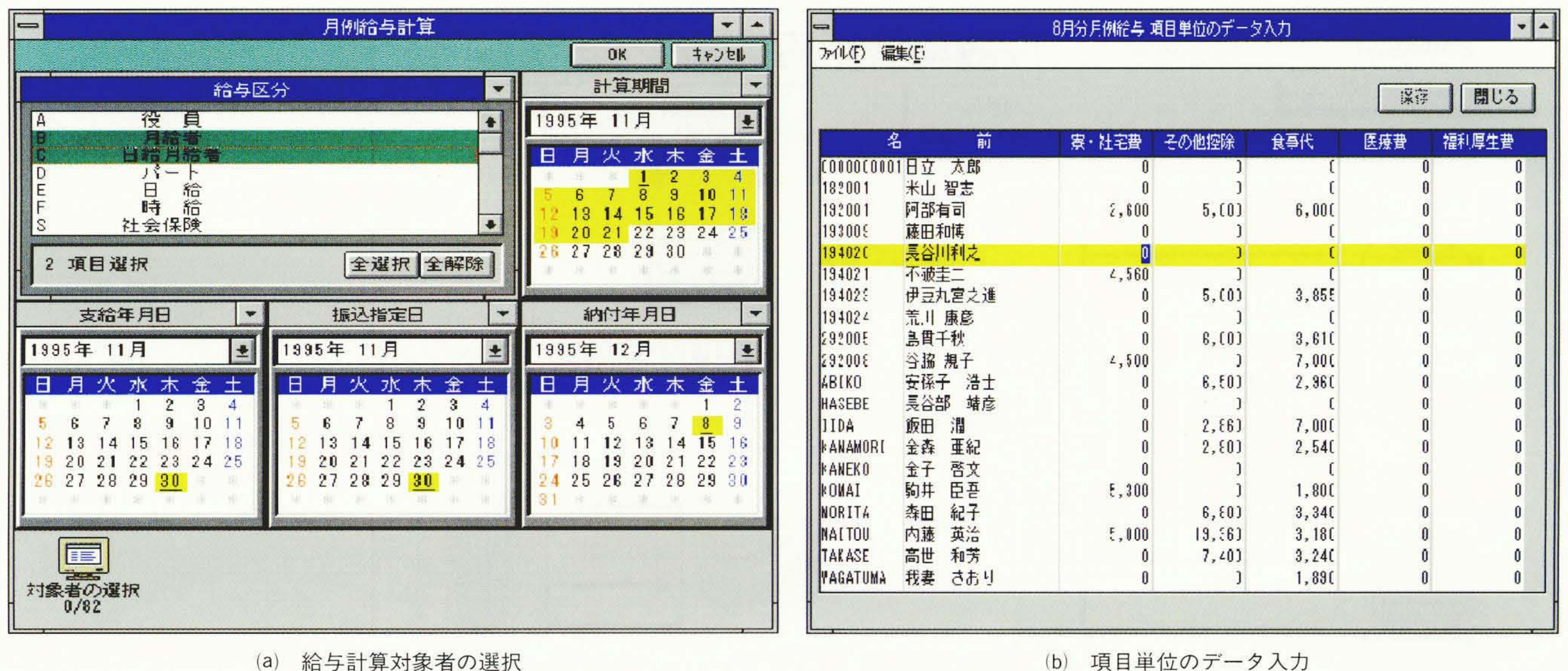


図2 HIPAYPASの入力画面例

「月例給与計算処理の対象者選択」画面(a)と「給与諸データの一覧表形式」による入力画面(b)を示す。

Administration System)」（図2参照）をベースにすることとした。

さらに、下記の条件を満足することを前提としてパッケージを検討した。

(1) 他システム連動機能

人事情報管理および給与計算の各パッケージに相互のデータ連動機能を持つとともに、カスタマイズ機能のアドオンの容易なパッケージであること

(2) オープンなシステムの採用

各業務パッケージのプラットフォームとしてRDB(Relational Database)にORACLE^{※1)}およびスプレッドシートExcel^{※2)}を採用しているため、部門内でのデータ加工・分析が容易なこと

(3) エンドユーザーにわかりやすいGUI

ユーザーインターフェースには文字だけでなく、GUIを利用し、直観的な操作を可能にしているとともに、人事情報管理では顔写真を利用することによっていっそうきめの細かい管理機能を持つこと

3 システムの機能と特徴

3.1 人事総合システム

人事情報管理システム“SIMPASER”では、その基本

機能によって社員個人に関する基本情報、業務履歴情報、自己申告情報などを管理し、グラフや顔写真を含む、直観的にわかりやすいビジュアルな表示で情報を提供することができる。

また、個人情報を検索する際は、行員番号による検索方法のほか、任意の条件指定による検索も可能である。

一方、給与計算システム“HIPAYPAS”では、給与、賞与、年末調整、社会保険、昇給差額、福利管理といった給与関連業務を、柔軟な条件設定機能を利用しながら効率的に進めることができる。

加えてAPPの連携機能により、給与計算側では人事情報管理で定義された個人情報や所属、市町村に関するデータを共有するとともに、人事情報管理側でも給与・賞与の支払い履歴情報を参照することが可能である。これにより、例えば昇給・昇格といった異動発生に伴うデータの二重入力とそれに伴うパンチミスが防止でき、結果として効率向上を果たすことができる。

過去の人事考課情報を活用して行った考課結果に基づいた異動情報やその他の一般情報は、SIMPASERを通じてクライアントから入力され、異動案の承認、確定処理後、異動結果が給与計算で反映される。これにより、人事異動に伴うスムーズな事務処理の実現を図ることができる。

3.2 連動システム

他システムとの連携機能概要を図3に、連動機能一覧を図4にそれぞれ示す。

※1) ORACLEは、米国Oracle Corp.の登録商標である。

※2) Excelは、米国Microsoft Corp.の商品名称である。

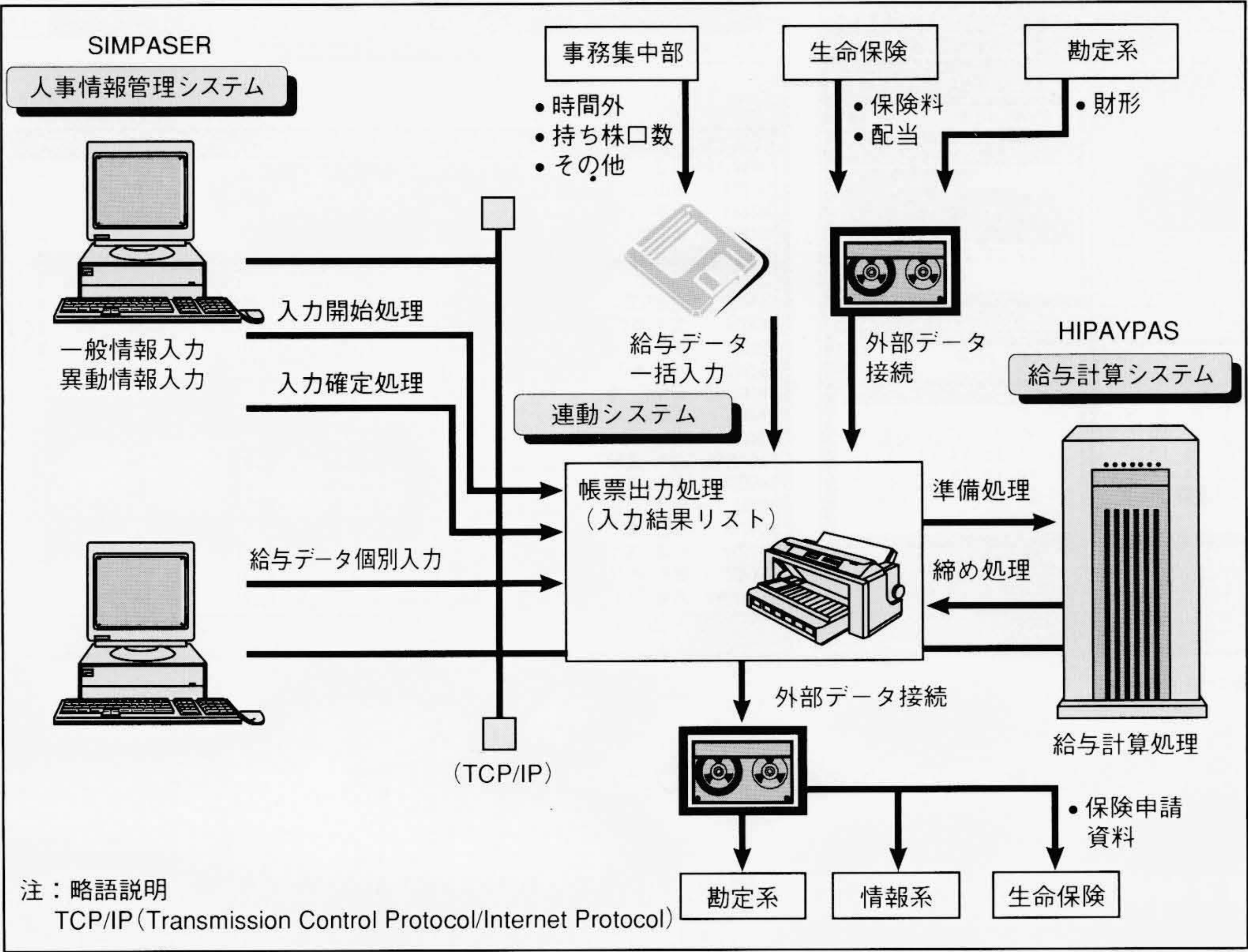


図3 人事情報管理と給与計算の連動システムの構成
それぞれのパッケージで入力されたデータだけではなく、外部データも連動システムによって取り込まれる。

SIMPASERとHIPAYPASの連携機能に加えて、株式会社十八銀行が独自に付加された機能としてシステム連動があげられる。連動システムはユーザー独自の処理(規則)をシステム化したもので、入力開始処理、給与データ入力処理、外部データ接続処理、入力確定処理などがある。個々の処理の主な機能について以下に述べる。

(1) 入力開始処理

HIPAYPASで給与計算をする際に必要な前月末時点の人事データ(等級・号俸・退職年月日など)を連動ファイルへ設定する機能である。

(2) 給与データ入力処理

当処理には、一括および個別入力処理がある。
一括入力処理とは、事務集中部でパンチ入力された諸手当などを連動ファイルへ設定する機能である。個別入力処理とは、一括入力された諸手当などを個別に入力訂正することができる機能である。さらに、個別入力処理には等級別の臨時支給(一時金)自動入力などもサポートしている。

(3) 外部データ接続処理

外部システム(勘定系システム・生命保険会社)で作成されたMT(Magnetic Tape)から給与データ(財形・保険料など)を連動ファイルへ設定したり、配当金、保険申請資料、人事データMTなどを作成するなど、外部システ

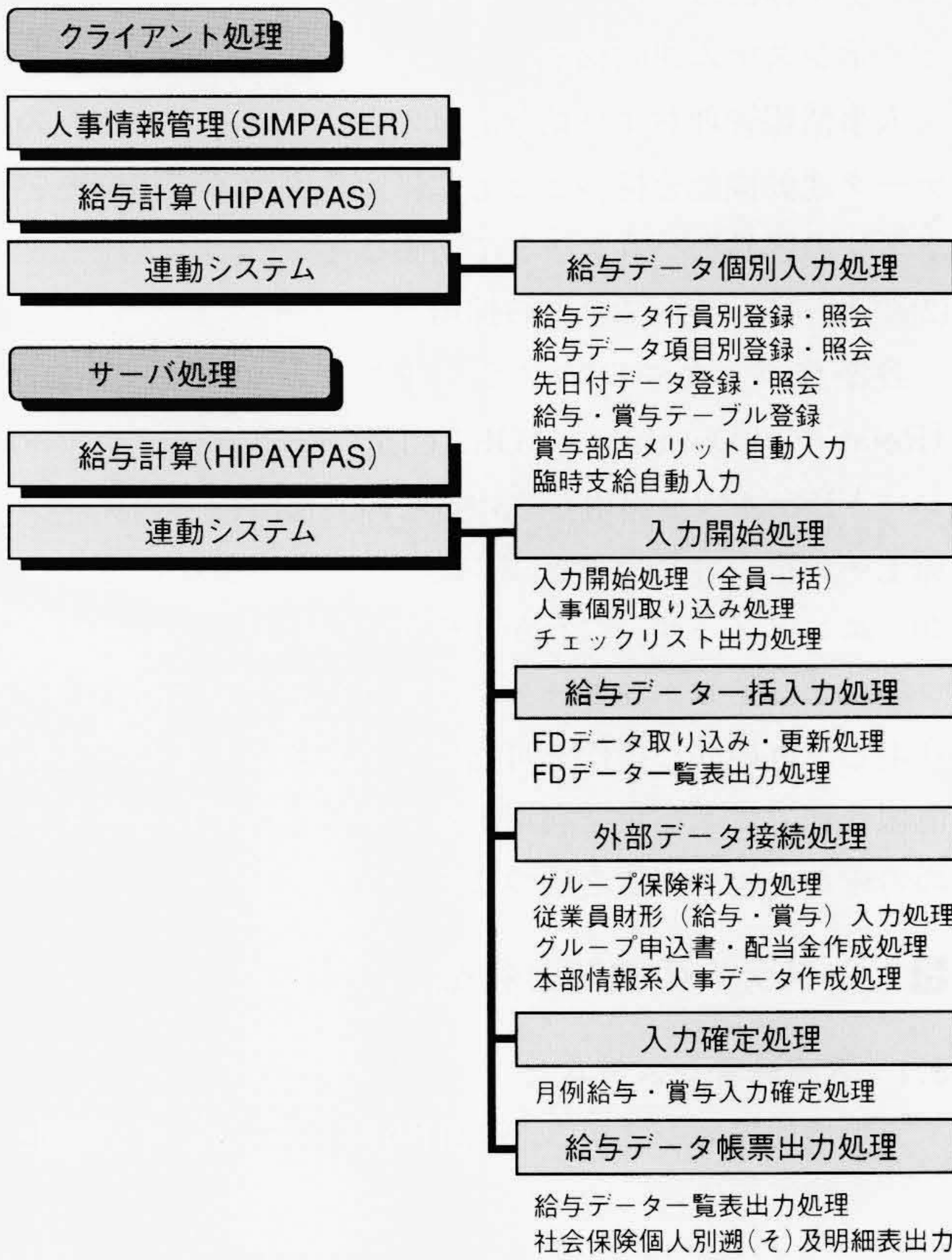


図4 人事総合システム連動機能一覧
このシステムでの連動機能はサーバ処理、クライアント処理に分けられる。

ム(勘定系システム・生命保険会社・本部情報系システム)間のデータを授受する機能である。

(4) 入力確定処理

給与計算日(異動反映締め日)を基準に、定例給与項目(本人給や諸手当など)の自動計算などを行って連動ファイルへ設定する機能である。

上記、連動システムで作成した連動ファイルを基にHIPAYPASでの給与準備処理(連動ファイルから給与ファイルへのデータ反映を含む。)以降の処理を実施することになる。

また、このシステムの稼動にあたっては既存データの移行への配慮も図られている。すなわち、現行の教育情報や給与情報を移行システムとして新人事総合システムの中に取り込むことにより、既存財産が活用されている。

3.3 負荷の分散

特に、給与計算業務では給与などの計算時期に数千人分の処理が集中することとなる。そのため、このシステムではインタラクティブに進められる業務はクライアントであるパソコンに、給与計算や給与明細書出力などのバッチ処理はサーバ側でクライアントからの要求によって一括して行われる。これを実現するための技術として、通信ソフトウェアであるLAN Workplace^{※3)}が提供する

ソケット間通信と呼ばれるTCP/IP上のAPI(Application Programming Interface)を用いている。

これにより、サーバとクライアント間はソフトウェア上で会話をしながら、それぞれの持つハードウェア・ソフトウェア資源の有効利用が可能となる。

3.4 GUI利用による“Look & Feel”の向上

このシステムでは文字ベース“CUI”(Character User Interface)の画面ではなく、使い勝手“Look & Feel”の向上のためにX Window System^{※4)}上で動作するOSF/Motif^{※5)}やWindows^{※6)}のGUI機能を使う。これにより、ヘルプ機能やマルチウィンドウによって操作性を向上するとともに、SIMPASERによる行員情報の検索時にはイメージスキャナによって入力された顔写真が表示できるなど、より細かい情報提供が受けられる。

3.5 法改定への順応性

APPの標準機能により、社会保険の各保険料の改定時には、画面から月額表や料率などを変更するだけで対応することができる。また、所得税計算や年末調整時の税率の改定に対しては、ソフトウェア サポート サービスの一環として改定のつど、タイムリーに提供される税制改定モジュールの組み込みだけで対応することが可能である(図5参照)。

※3) LAN WorkPlaceは、米国でのNovell, Inc.の登録商標である。

※4) X Window Systemは、米国Consortium, Inc.が開発したソフトウェアである。

※5) OSF/Motifは、Open Software Foundation, Inc.の商標である。

※6) Windowsは、米国Microsoft Corp.の登録商標である。

健康保険標準報酬月額登録				
ファイル(F) 編集(E)				
134				
項番	等級	標準報酬月額	報酬月額下限	報酬月額上限
		単位:千円	単位:円	単位:円
1	01	0	0	89000
2	01	92	89000	95000
3	02	98	95000	101000
4	03	104	101000	107000
5	04	110	107000	114000
6	05	118	114000	122000
7	06	126	122000	130000
8	07	134	130000	138000
9	08	142	138000	146000
10	09	150	146000	155000
11	10	160	155000	165000
12	11	170	165000	175000
13	12	180	175000	185000
14	13	190	185000	195000
15	14	200	195000	210000

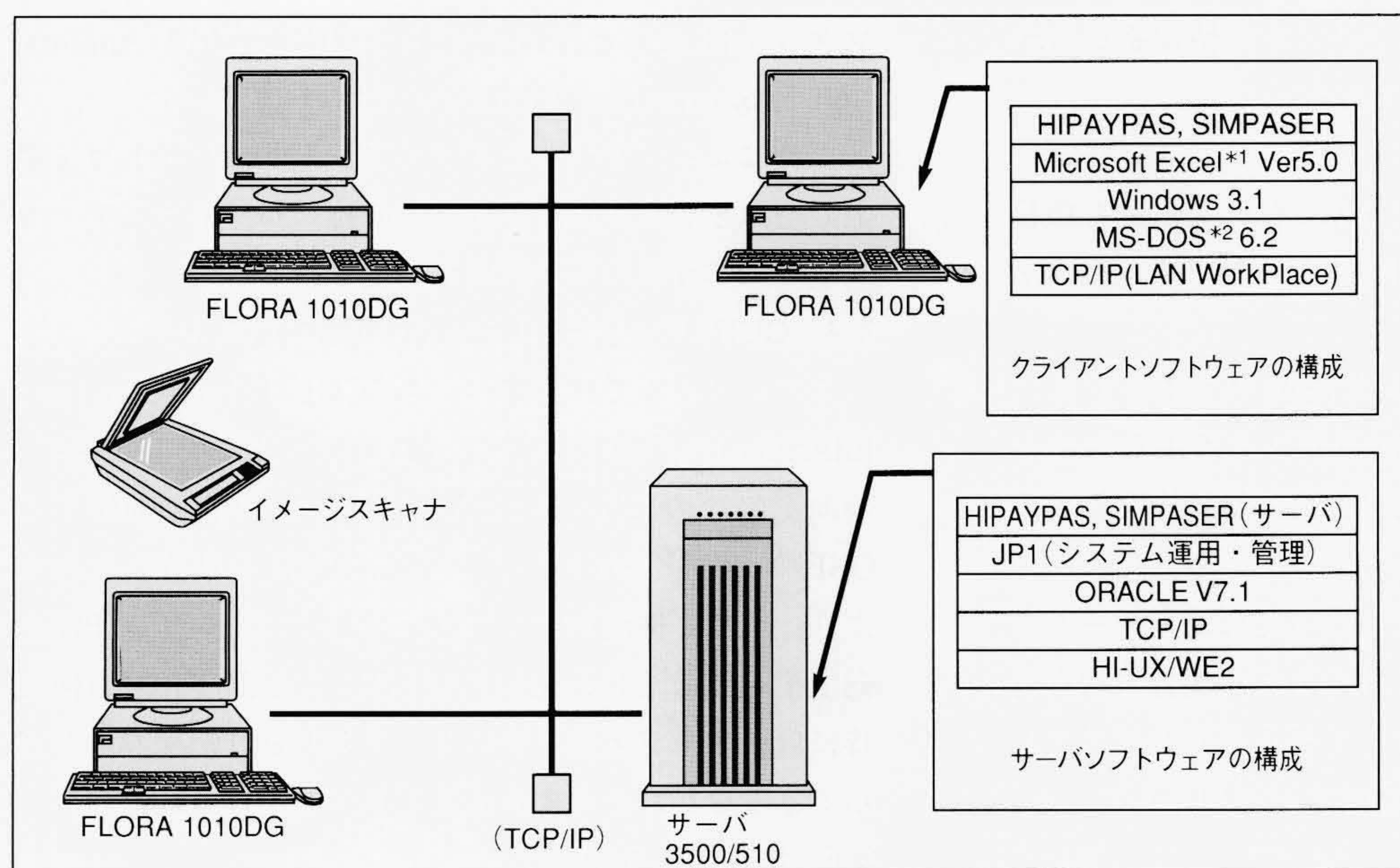
(a) 健康保険標準報酬月額の登録

社会保険料率の設定			
閉じる			
(株)日立ABC商事 本社	個人	端数処理	全体
給与の健康保険料の率	8.20	切り捨て	82.00
給与の特別保険料の率	3.00	五捨六入	5.00
給与の厚生年金保険料の率 (男子)	82.50	切り捨て	165.00
給与の厚生年金保険料の率 (女子)	82.50	切り捨て	165.00
給与の厚生年金保険料の率	5.00	切り捨て	10.00
給与の厚生年金基金料の率 (男子)	65.00	切り捨て	130.00
給与の厚生年金基金料の率 (女子)	65.00	切り捨て	130.00
給与の厚生年金基金料の率	0.00	切り捨て	0.00
給与の厚生年金基金加算料の率	0.00	切り捨て	0.00
給与の厚生年金基金加算料の率	0.00	切り捨て	0.00
児童手当拠出金の率			1.00
雇用保険料の求め方	保険料率により計算		
雇用保険料の率	4.00	切り捨て	7.60
労災保険料の率			6.00
(料率: /1000)			

(b) 保険事業所の設定

図5 社会保険料改定への対応画面例

社会保険の各保険料の改定時には、画面から月額表や料率などを変更するだけで対応することができる。



注：

*1 Microsoft Excelは、米国Microsoft Corp.の商品名称である。

*2 MS-DOSは、米国Microsoft Corp.の登録商標である。

図6 人事総合システムの構成

各業務担当者が対話形式で使用するクライアントとデータベースを保持し、クライアントからの要求に応じて業務処理が実行できるCSS形態の構成としている。

4 システム構成

人事総合システムの構成を図6に示す。このシステムは、各業務担当者が対話形式で使用するクライアント、およびデータベースを保持し、クライアントからの要求に応じて業務処理を実行するサーバで構成されるCSS形態である。サーバとクライアントはプロトコルにTCP/IPを採用したLANで接続される。クライアント側の画面には人事情報管理や給与計算の文字情報に加え、行員の顔写真などの画像情報も表示されるため、その入力装置としてイメージスキャナが接続される。

オペレーティングシステムとしては、それぞれ業界標準の製品であるUNIX^{※7)}をベースとするHI-UX/WE2をサーバ3500/510-3Dに、Microsoft^{※8)} Windows Version 3.1をクライアントであるパソコン“FLORA 1010DG”に採用している。

※7) UNIXは、X/Open Company Limitedがライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標である。

※8) Microsoftは、米国Microsoft Corp.の登録商標である。

さらに、エンドユーザーでの運用を支援するため、システム自動運転機能(JP1)を導入している。

この製品により、帳票類の印字時に発生し得る紙詰まりや紙切れ等のプリンタ障害へのリカバリ処理などが可能となる。

5 おわりに

ここでは、株式会社十八銀行でのCSS型人事給与システムのパッケージソフトウェア「人事情報管理システム“SIMPASER”」、および「給与計算システム“HIPAYPAS”」の適用事例について述べた。

株式会社十八銀行では今後一般勤務者だけではなく、増加する国外勤務者の給与計算もこのシステムで処理していく予定である。

日立製作所は、今後、このAPPを含むさまざまなCSS形態のAPPの充実により、トータルソリューションを提供することができる製品やサービスのラインアップの拡充を図っていく考えである。

参考文献

1) 田中, 外: 金融機関におけるエンドユーザーコンピューティングを支える情報ロジスティクス, 日立評論, 77, 6, 393~398(平7-6)

2) C.H.ケプナー, 外: 新・管理者の判断力—ラショナル・マネジャー, 産能大学出版部(1993)